

お隣さんとながり、地域とながる

鈴木 孝子

子どもたちを健全に育てるには、家庭で養育を、学校で教育を、地域社会では子どもたち自らが、社会性と自主性を学べる場が必要だと言われています。世田谷区千歳台地域にはいくつもの街区公園があります。これらを子どもたちや地域住民たちの「つなぎの場」にしようと試み、まずはお隣さんと、次に地域とないだ体験を紹介します。

春、1994年のことです。生産者緑地が点在している世田谷区千歳台4丁目に6階建の賃貸マンションが完成します。目の前は公園、私の勤務先まで徒歩5分。子どもが通う保育園も5分と、仕事を持つ母親には嬉しい立地です。入居しますと、もうひとつ嬉しいことがありました。全23世帯のうち、1/3が子育て家族だったのです。

夏、マンション前の公園で上階の家族と花火をしました。他の居住者

が公園の賑やかな声を聞きつけて、ビールやおつまみも持って次々に集まりました。期せずして宴となりました。最上階に居住している大家さんも参加。大家さんは土地の人です。その席で、近隣の知人が耕作するさつまいも畑の1区画を居住者に提供する約束をしてくださいました。

秋は歩いて5分の「芋掘り」です。畑で大きな芋を掘り出すたびに歓声が湧き上がります。掘った芋は消防署に許可をもらい、公園で焼芋にしました。子どもたちは落ち葉を集め、男性は火の当番、女性は芋を濡れ新聞紙とアルミ箔に包む作業。芋の蔓でクリスマスリースを編みましました。やがて、芋が焼きあがり、湯気が喜びの顔を覆います。物事はその過程が楽しく、結果に満足することができると、次につながります。

冬、餅つきです。各戸が分担をして餅米を研ぎ、蒸すためのガス台は公園に近い1階の居住者が提供。臼や杵の用具は区からの借り出し。運ぶのは大きな商用車も持っている居住者です。公園で力一杯に杵を持ち上げる男の子。お父さんの力を借りる女の子。つきたての餅を、あんこ、きなこ、海苔、大根おろしをつけていただきます。正月用に伸し餅にす

る家、丸餅にする家、出身地が分ります。公園の寒風に温もりを感じた
ものです。

春がめぐってきました。朝、我が家のカーテンを開くと公園の桜がリ
ビングに飛び込んできました。子どもたちの発案でお花見会です。陽光
で淡いピンク色に染まった公園を子どもたちが走り回り、各家庭がお花
見弁当を持ち寄って味自慢。これが昼の部です。夜の部は酒や肴、コタ
ツ、ライトを持ち込んで、大人たちが主役です。ライトアップするのは
仕事で手慣れている居住者がセッティング。コタツで夜桜見物。これは
乙なものでした。

これらの催しをプロのカメラマンが撮影してくれました。彼も居住者
の1人です。当時はまだデジタルカメラは普及していません。写真はア
ルバムにして回覧をしました。写真の横にちょっとした文章が書けるス
ペースを用意し、まず、私が一言を書き添えました。一巡して戻ってく
ると、笑顔の横に生活感あふれるストーリーが展開されていました。アル
バムの表紙は私が描いた拙いマンションの断面図。そこには居住者の名

前と電話番号、それにワンちゃんの名前も入れました。個人情報うんぬんを言う前のことです。

居住者の間につながりができた要因はいくつかあります。新築で一斉入居のため居住歴によるしがらみがなかったこと。23戸いうのはコミュニケーションが取りやすい規模であったこと。大家さんも入居しているので了解が速やかに取れること。子どもとペットがコミュニケーション形成の核となったこと。マンション前の公園を共用空間として活用できたこと。そして、居住者が無理をすることなく自然体で協力し合えたこと、です。

1996年、我が子が世田谷区立千歳台小学校に入学します。いっしょに通学路を歩いてみますと、学校までの450mの間に公園が4つもあるのです。これらを活用したい、地域の資産と言うべきこれらの公園をつなげて、地域に生かしたいと思うようになりました。

1998年、世田谷区にまちづくりファンドの制度を知り、同じマンションの居住者、地域や職場の仲間、東京農業大学の教官と学生を組織

して助成を受けました。目的は次のように揚げました。個々の公園を特徴づけ、地域の「安全拠点」として「自分たちの公園」とすること。自然体験や社会体験等の場として公園を活用し、環境を考える動因とすること。宅地化による集合住宅の新住民、地主さん等の旧住民との交流の場にすること、です。

まず、千歳台4丁目の生活環境、4公園の名称・通称・所在地・開園日・施設・形態等を調べ、平面図や鳥瞰図も作成しました。また、公園利用者の実態調査もしました。その結果を「ぐんぐんレポート」にまとめました。翌年、このなかから特集テーマを取り出して、4頁立ての新聞を発行しました。「ぐんぐんニュース」と名付け、地域への問題提起を試みました。1、3頁は子どもたちへ、4頁は地域の人たちへ向けて、特集を通して考えてもらいたいことを発信したのです。これを千歳台小学校の全児童と先生、周辺小中学校、消防署、希望ヶ丘記念館等に配付しました。また、区の掲示板にも掲示しました。

取り上げました内容は、日本における公園の歴史と分類、4公園の特

徴の比較、子供たちが呼ぶ公園の通称、千歳台小学校前の公園が世田谷区砧地域街区公園内で最長滞留時間であった調査結果、パーゴラからの眺め、公園周辺の不法駐車、公園のホームレスへのヒアリング、車いすでの公園利用の体験報告、公園に関する児童書の紹介、区画整理事業の紹介、公園に埋設されている消防水利・防火水槽、等です。その他、私たちがイベントを企画・実施し、その記録を記事にしました。コマづくりとコマまわし競争、水鉄砲づくり、公園模型づくり、スパーボールづくり、防災意識を高めるためのバケツリレーゲーム、です。この企画のなかには町内会や小学校PTAからの要請に応えたものもあります。更に、世田谷区主催の「SEITAGYA コロンブスアウトドアCIITY デイスカバリィ98」コンクールに応募しました。これは地域の特徴を全紙1枚で表現するもので、私たちは作品名を「パンダ・かわ・あみなし・タイヤ、これなんだ？」としました。これは子どもたちが呼ぶ公園の通称です。地域の生活環境を地図で表し、その上に4公園の特徴と公園実態調査の結果をポツスアツプ式で表現しました。公開審査時には、

専門家や他地域の人たちから多様な意見をいただき、大賞にも選ばれました。作品は折り畳めるようにしていただきましたから、各所に持ち込んで、みんなに披露し、喜びを分かち合い、活動継続の活力にもなりました。

2002年、貴重な出会いがありました。それは希望ヶ丘記念館です。私たちが暮らす地域は、1965年から1990年にかけて、土地区画整理事業がなされたのです。その結果、多くの公園が生まれ、記念館も建てられました。事業団の理事長に4時間にわたるインタビューをしました。戦前から戦後にかけての地域の変遷、特に区画整理事業については、住民自らが学び、将来のことを考え、同意し、満足度を高めていく過程を話してくださいました。それぞれの価値観を尊重しながら事業を進めるには、決して25年の歳月は長くはなかつたという言葉に感銘を受けました。区画整理事業によってインフラが整備され、消防署が幅員の広い道路に移転する等、利便性が高まりました。各公園に桜が植樹され、設置されたすべてのモニュメントは子どもがテーマです。地域の東側を走る環状8号線には、将来の交通量を考え、緩衝緑地帯がつくられました

た。こうした地域にまつわる貴重な話は、きちんと形に残すべきだと思
い、「ぐんぐんノート」としてまとめました。「ぐんぐん」というタイト
ルの通り、レポート、ニュース、ノートと展開し、成長していったので
す。

子どもたちが「ぐんぐんニュース」を認知し、地域での知名度も上が
りました。しかし、実態は、地域住民と仕事や学業があるメンバーとの
打ち合わせ時間等の調整が難しくなり、次第に、住民サイドと研究サイ
ドとの方向性が噛み合わなくなりました。メンバーが少なくなっていく
なかで、頑張つて活動を続けていましたが、その後、私が転居すること
になり、仕事・子育て・地域活動を支えていた職住近接が崩れてしまい、
休止に至りました。

2002年春に、発行した「ぐんぐんニュース」No.1〜25、「ぐんぐん
ノート」を千歳台小学校図書室に置いていただき、我が子とともに卒業
しました。この活動経緯が他地域でも役立つように、世田谷区まちづく
りファンド審査委員に報告しました。現在は活動を休止していますが、

まちづくり活動について修士論文を書く何人かの大学院生から、問い合わせがあります。私は仕事をリタイアした後、活動の再開を考えています。その背中を押すのが大学生になった我が子です。彼は多くの友人と過した千歳台は原風景の地だと言います。私の年少期を振り返ると、京都の加茂川や大文字送り火、お祭りや地藏盆、町衆の力が原風景です。それらがこの活動の原動力であったと言っても過言ではありません。

地域というものは、人が本来持っていた有機的なものを取り戻していく、再生していくという土壌を持っています。自らの地域にある価値を発見して、専門家や行政といっしょになって、評価し、地域学を構築し、地域力を蓄える。そして、次の世代に地域を伝えることが大切です。地域力を保持しているところ、また、地域力を回復させたところがあります。こうした地域が増え、それらをつなげていくと大きな流れになります。このように考えをめぐらしていると、「地域」は私個人に、活動再開のエネルギーまで与えてくれます。この8年間の活動は、私に豊穡な地域で子どもたちを育てる重要性を教えてくれました。